

# 魚谷事務総長が解説 — IRF Summit 2025 の意義と日本への示唆

---

## 要点

- IRF サミット 2025 が 2025 年 2 月にワシントン D.C. で開催、90 超の団体が参加
  - 日本の旧統一教会解散命令請求が「信教の自由への脅威」として議論
  - 魚谷事務総長は日本が迫害国家と同列で扱われた事実注意到を促す
- 

国際宗教自由サミット (IRF Summit) 2025 が 2 月 4~5 日、米ワシントン D.C. で開催された。90 超の団体・30 以上の宗教伝統が参加する世界最大の宗教自由会議である (IRF Summit 公式、2025 年)。

安倍元首相銃撃事件 (2022 年) 後、日本政府は旧統一教会への解散命令を請求。サミットではギングリッチ元米下院議長が「法的地位の剥奪は日米関係に深刻な影響を及ぼす」と警告し、スウェット共同議長は「魔女狩りの迫害」と表現した。6 宗教の指導者が影響声明に署名している。UPF-Japan 魚谷俊輔事務総長は、日本が中国・イランなど信教の自由に問題を抱える国々と同列で議論された事実を指摘。民主主義国家がこの文脈で取り上げられたこと自体が、今後の政策議論で無視できない国際的注目点であると解説している。